

後志自動車道(余市 IC ~小樽 JCT)の開通とその整備効果等について

NEXCO 東日本 北海道支社

はじめに

後志自動車道は、後志・道央地域などの連絡の強化を図り、沿線地域の安全・安心を確保するとともに、産業・経済・観光等の発展に資する高規格幹線道路です。

このたび、平成 30 年 12 月 8 日に余市 IC から小樽 JCT までの 23.3km の区間が開通しました。(図-1、写真-1)

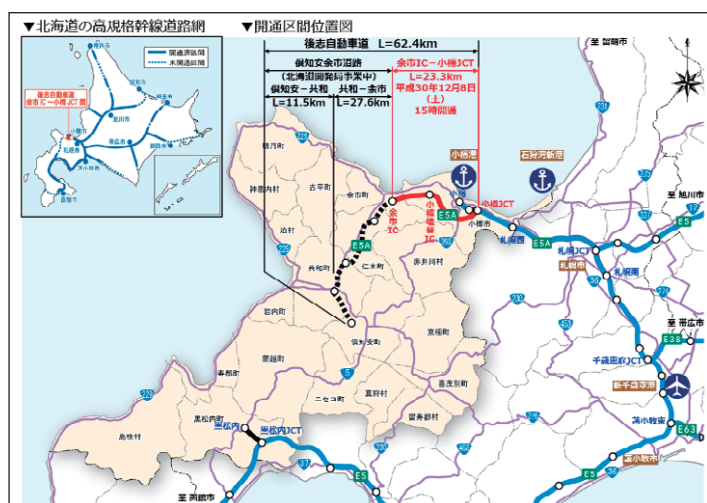


図-1 今回開通区間の位置図



写真-1 余市 IC

1. 後志自動車道の概要

北海道横断自動車道(黒松内釧路線)は、黒松内町を起点に倶知安町、小樽市、夕張市、帯広市等を経由し、釧路市へ至る 421km の高速道路で、現在までに札幌自動車道の小樽～札幌 JCT、道東自動車道の千歳恵庭 JCT～阿寒 IC までが開通しています。

このうち、今般開通した後志自動車道余市～小樽 JCT 間は札幌自動車道と連結し、災害時などの国道 5 号の代替ルートとしての交通機能を確保するとともに、後志圏から札幌圏にある高次医療機関への搬送の所要時間短縮、農水産物等の物流の効率化に寄与すること、さらには黒松内～小樽間倶知安余市道路(北海道開発局が事業主体)共和～余市間 27.6 km が平成 26 年度に、倶知安～共和間 11.5 km が平成 28 年度に事業化され今後整備されることにより北海道西部の環状ネットワーク機能が形成され、拠点空港新千歳空港から国際的観光地ニセコまでの速達性の向上や有珠山噴火等の大規模災害時に代替路として道央圏・道南圏の安全・安心な暮らしに寄与するものと期待されています。

2. 開通区間の概要

当該区間は余市 IC を起点に国道 5 号とほぼ並行して東に進み、JR 函館本線の塩谷駅付近で小樽塩谷 IC が接続されます。(写真-2) 小樽塩谷 IC からは小樽市の市街地を避ける形で山側をはしり、天狗山及び毛無山を 3,000m 弱の 2 本のトンネルで通過し小樽 JCT に至ります。(写真-3)

通過する地形は起点側が主に丘陵地、終点側が主に山地を通過していることから、橋梁が 14 橋 (ランプ橋 2 橋を含む) 3.2 km、トンネルが 8 本で 8.4 km となり、構造物比率が 50% と約半分が橋、トンネルの構造物となっています。



写真-2 小樽塩谷 IC



写真-3 小樽 JCT

3. 開通による整備効果

(1) 安全性向上と代替路確保

当該区間に並行する国道 5 号には、事故危険区間が 19 ヶ所存在しており、死傷事故率も北海道内の国道平均に比べて高く、さらには地震発生時に津波の浸水による進入規制が想定されています。

当該区間の整備により安全性の向上が図られるとともに、津波の影響を受けないことから、津波発生時の広域避難路や緊急輸送道路として期待されています。(図-2)

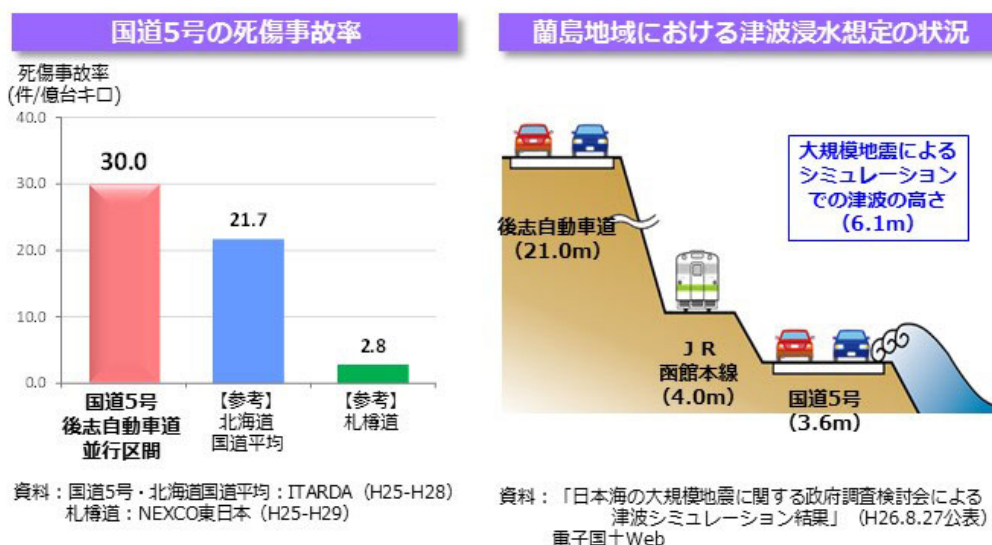


図-2 国道 5 号の死傷事故率、津波浸水想定状況

(2) 噴火災害時の代替路確保

有珠山は、おおむね 30 年に 1 回の確率で噴火が発生し、樽前山も活火山であることから、噴火発生リスクが高まっており、有珠山や樽前山が噴火した場合、噴火影響範囲内の道央自動車道や国道 230 号等の通行止めが想定されるため、社会的に大きな影響を及ぼす懸念があります。

当該区間の整備により有珠山や樽前山の噴火時に、道央圏と道南圏を結ぶ北回りの代替路や避難路として期待されています。(図-3)

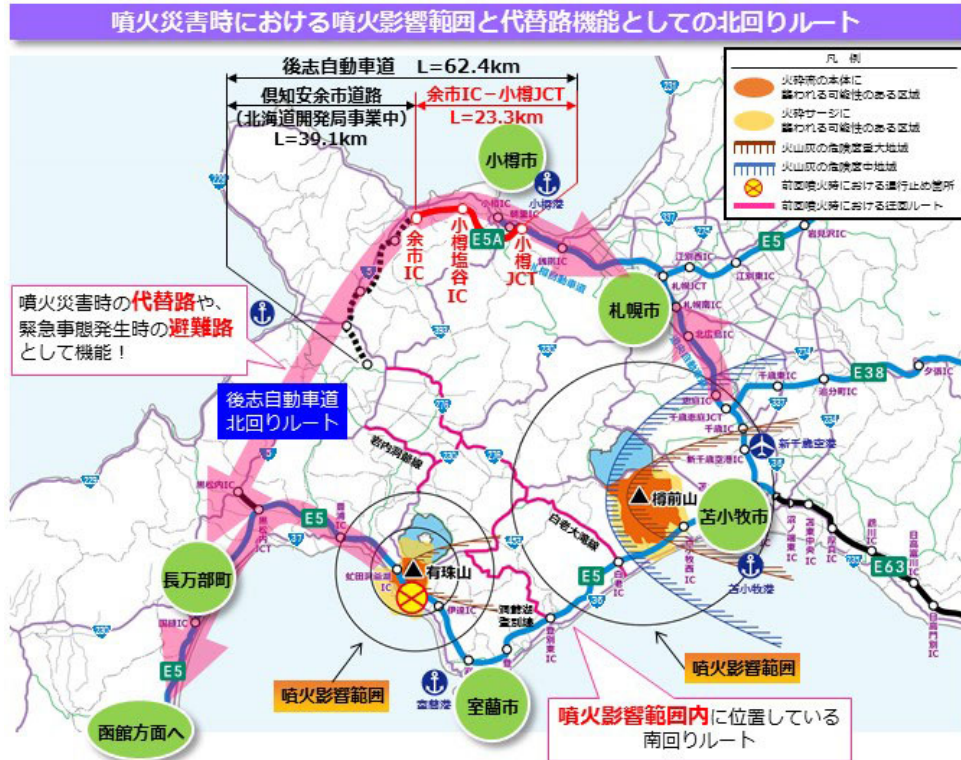


図-3 噴火影響範囲と代替路機能

(3) 観光の活性化

果物狩りや景勝地など豊富な観光資源を有している後志自動車道周辺地域では、夏期の観光客が多いことから、特に観光客の主要観光ルートである国道 5 号は、観光シーズンの夏期に旅行速度が低下します。当該区間の整備による道央圏からの所要時間短縮により、観光地へのアクセス性が向上し、更なる観光客の集客が期待されています。(図-4)

(4) 地域の安全・安心な暮らしに寄与

後志管内には三次医療施設は存在せず、最も近い三次医療施設である札幌手稲浜仁会病院からの整備前の 60 分圏域は余市町までとなっています。

当該区間の整備により、三次医療施設



資料：北海道観光入込客数調査報告書 (H29年度)

図-4 観光入込客数

までの搬送時間が15分短縮され、60分圏域が古平町・仁木町・赤井川村（60分圏域内人口約6,000人）まで拡大し、後志地域の救急医療体制が強化されます。（図-5）

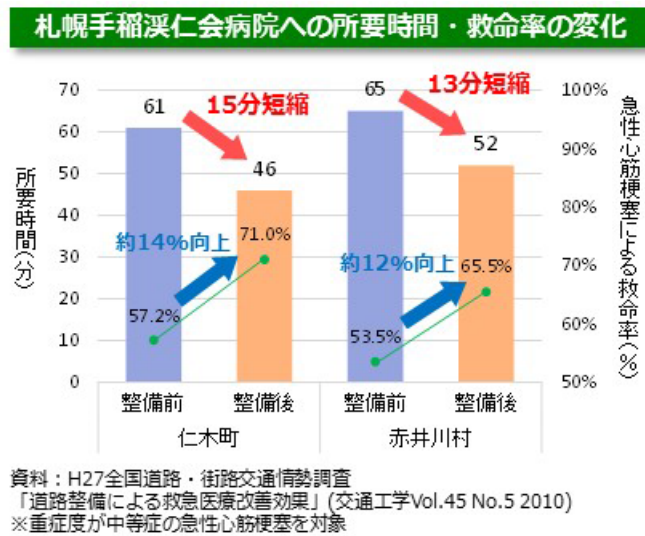


図-5 三次医療施設への所要時間・救命率の変化

(5) 農水産品の輸送の利便性向上

後志地域のぶどう収穫量は北海道全体の8割以上を占め、道内各地に出荷しています。また、余市町・古平町・積丹町のウニ漁獲高は北海道全体の約1割、その多くが東京中央卸売市場などへ航空便で輸送されます。（図-6）

当該区間の整備により、迅速性・定時性が向上し、安定的な輸送を支援します。



図-6 特産品の輸送状況

4. 開通関連イベント

しりべし高速交通ネットワーク推進会議が主催し平成21年より実施している後志管内在住の5、6年生を対象とした「しりべしKid's 高速道路体験バスツアー」は、開通年である今年に10年目を迎え、開通前の高速道路を自転車によりサイクリングと路面上へのお絵かきを実施しました。(写真-4)

また、日常の生活や経済活動を支えているインフラの普段触れることのできない内部や工事中の風景などを見学することを通してインフラを観光資源として活用する取組であるインフラツアーに、当該区間を活用し、平成29年、30年とインフラツアーを行い、大変好評をいただきました。(写真-5)

平成30年11月10日には、開通に先立ち、余市町主催によるウォーキングとランニングで高速道路を見学するイベントが開催され、地元住民の方など約160名が参加し、道路上からの景観を楽しみました。



写真-4 高速道路体験バスツアー



写真-5 インフラツアー

おわりに

後志自動車道は後志地方の地域の発展に寄与するものと沿線地域の皆さまから大きな期待を寄せられています。

今回開通できたことは貴重な土地をご提供して頂いた地権者の皆さま、ならびに地元の皆さま方のご協力の賜物であり、改めまして感謝申し上げます。



写真-6 開通式典



写真-7 通り初め